

クリニックレター 2015.10月

〒663-8113 西宮市甲子園口2-8-31 医療法人岐黄会西本クリニック

TEL:0798-65-5111 FAX:0798-65-5115 HP: <http://www.nishimotoclinic.jp/>

このクリニックレターは、西本クリニックから患者様への情報を、すばやく、わかりやすくお伝えするためのお手紙です。原則月1回の発行で、スタッフが皆さんに知っていただきたい事をビビッドに発信していきます。

OTC 医薬品あれこれ (後半)

一本当は怖い「隠れ漢方薬」 -

前回は、薬局や薬店で売られている漢方薬が第2類医薬品に分類されており、法律上は、お薬の効能や副作用に対する薬剤師からの説明は「努力義務」であり、薬剤師の免許を持っていない登録販売業者でも販売できる、というお話をしました。(ちなみに針灸院などで漢方薬を勧めるところがありますが、おそらく、その鍼灸師さんが「登録販売業者」として登録しているからだと思います。)「努力義務」ということは、言い換えれば「しなくても咎められない」ということであり、実際、ドラッグストアの店頭で売っている漢方薬を薬剤師の説明なしに購入することは可能なのです。

この場合、もし、薬剤師からの説明がないとしても、お薬のパッケージに「葛根湯」とか「小青竜湯」などときちんと書かれていれば、本やネットで調べて、どんな薬か、どんなときに飲むべきか、どんな副作用があるか、を購入される方がご自身で(ある程度)知ることも出来るかと思えます。

しかし、一見して漢方薬とは思えないようなお薬が、「膀胱炎に効く」とか「脂肪太りを解消する」なんて宣伝されていたら、なんとなく買ってしまってもいいかもしれませんね。

そのような薬を「隠れ漢方薬」と呼んでいるのですが、これらの「隠れ漢方薬」のなかには、怖い副作用の可能性があり、患者様が勝手に購入することは控えてください! というものがいくつもあるのです。今回は「本当は怖い隠れ漢方薬」のいくつかをあげてみたいと思います。

本当は怖い隠れ漢方薬

「ナイシトール」

脂肪太りを解消する、という意味で、「内臓脂肪をとる⇒ナイシトール」となったのでしょうか? 語感もよく、なかなかいいネーミングですね。

実はこの薬、防風通聖散という漢方薬そのものです。

防風通聖散は、「黄帝素問宣明論」という12世紀に中国で書かれた書物の中にある処方箋で、日本でも、食べすぎ、飲みすぎによる肥満体質の方の体質改善剤として、古くから用いられている処方箋で、18種類の生薬から構成されています。

(裏面に続く)



ただ、構成生薬の一つである、黄芩が要注意なのです。

黄芩は、皮膚の炎症を改善したり、イライラを鎮めてくれる作用があるよい薬なのですが、黄芩の含まれる漢方薬を服用していると、ごくまれに、肝機能障害がおこったり、過敏性膀胱炎や、さらには、間質性肺炎という病気を引き起こすことが知られています。

これらは、お薬を服用してから2-3ヶ月以内に起こることが多いので、黄芩の入ったお薬が必要な患者さんには、処方開始後1ヶ月程度で血液検査をしたり、症状を綿密にお聞きして、このような副作用がないかどうかを十分にチェックしています。また、煎じ薬で処方する場合は、黄芩だけを抜いた(黄芩を入れない)処方をすることも可能です。

同じように黄芩が入っていないながら、名前の分かりにくい隠れ漢方薬に「ユリナール」があります。

このパッケージを見ると、「おしっここの悩みに」「夜2回以上トイレに行く(頻尿)」「残尿感」「出しぶり」などの言葉が並んでいますが、このお薬は「清心蓮子飲」という漢方薬そのものなのです。清心蓮子飲は、精神的ストレスが強く、イライラしやすいような方の頻尿に効く処方なので、膀胱炎や冷え症による頻尿には効果が期待できないと考えますし、防風通聖散と同様に、長く飲み続けるのであれば、医師の観察のもとに、血液検査などもきちんとしながら服用する必要がある薬です。

それでは、風邪薬はどうでしょうか?

「カコナール」というお薬の名前は聞かれた方も多いかと思えます。

これは有名な「葛根湯」です。葛根湯には「麻黄」という生薬が含まれています。麻黄には発汗解熱作用があり、葛根湯にはなくてはならない生薬ですが、脳の覚醒作用や、心臓刺激作用がありますので、高齢者やバセドー病の方には要注意です。風邪などで短期間勝負の場合は、薬の服用期間も短いのでまず心配ないのですが、肩こりなどで長期間服用する場合は、これらの副作用を知っておく必要があります。「夜眠れない」と訴えて来院された方に服用されているお薬をお聞きしてみたら、カコナールを毎日1本飲んでいる、ということだったので、まずはそれをやめていただいたら、ウソのように毎日良く眠れるようになった、ということもあるのです。

漢方薬は、基本的には非常に安全で使いやすいお薬ですが、一部に、よく注意をして使う必要のあるものがあります。また、漢方薬はすべて難しい漢字の名前ばかりではなく、西洋薬の名前のような「隠れ漢方薬」にも注意する必要があります。お薬を、安全に、効率よく使うために、医師・薬剤師を上手に活用していただければと思います。

クリニックレターのバックナンバーをお読みにになりたい方は、クリニックのホームページをご覧ください。